

第4回東輝・詳徳中学校ブロック協議会 議事録要旨

■日時

平成29年3月29日（水）午後7:00～午後8:40

■会場

亀岡市役所 1階 市民ホール

■議事

- 1 開会
- 2 計画の見直し案と対応について
- 3 意見交換
- 4 閉会

■意見交換発言内容

委員	今回、馬堀駅前2丁目地区については、見直していただいてよかった。ただ、森区についても同じように反対意見が多かったがそのままに残された。その差は何か。
事務局	馬堀駅前2丁目地区からは、原案について全く賛成できないと二度に渡り地域の総意としての反対要望も踏まえるなど、熟慮の上で外させていただいた。森区についても反対の意見が多いことは十分に承知しているが、安詳小学校の過密化の解消という点において、何とかご理解をいただけるように、今後も地域の皆様に説明する中でご理解いただけるように努めていきたい。
委員	それでは、地域で取りまとめて反対すれば見直してもらえると取られてしまう。そうでなくて、本当に児童のことを考えてどういう見直しを亀岡市が考えているのかということが大事である。その中でも児童や保護者の声を聴いてもらうことも必要である。地域の総意だから外したのではなくて、合理的な理由があって、外したというのではないと保護者としてすごく不安に思う。そこを説明してほしい。
座長 (教育総務課長)	基本的な考え方は事務局が説明した通りで、それに併せて、通学の安全を確保するという観点から、馬堀駅前2丁目等の削った地域については、明らかに安詳小学校の方が近く、幹線道路を避けて通学できるということがある。しかしながら、詳徳小学校になると、主要幹線を渡って通学するということが出てくるため、今回見直した。野条地区についても、一定のエリアについては、安詳小学校の過密解消という点から残させていただいた。御理解をいただきたいとの思いである。

委員	<p>馬堀駅前2丁目だけ外すのでは、なかなか納得されないのではないかと。その辺をちゃんと説明しないとかえって混乱する。年度についても柔軟にという説明であったが、前回の会議でも本当に30年度から実施するのかと確認したが、事務局からもこの状況では3月に一定の方針を出すのが難しいため、平成30年度実施も難しいと考えていると言われた。一定、いつから実施するという目途を出すことが必要で、それに向けて話し合いをしていかないといけないと思う。案を修正ばかりしていると、結局外してきたところの理由が立たない。齟齬をきたすので、一回白紙に戻して一からすべきではないか、前はそういうニュアンスだったと思う。そうでないと、今回の見直しで、残された地域と外された地域でバランスがとれていなくて、混乱を呼ぶことになる。結局、議員の先生に地域でお願いして要望しないと通らないのかとか、いろんな意見がある中で、大きい声に消されてしまい少数意見が反映されるのかがすごく心配である。また、親の不安や心配が子どもに伝わっていくことも問題である。安詳小学校では、今後教室不足が生じてくるし、学校の努力で解消できても校長の権限で実施する少人数学級ができなくなることで、せっかく特色ある学校運営をいただいているのに、すごく残念でもったいない。いったん白紙に戻して、ゆっくり地に足の着いた案をつくるのがよい。また、夕日ヶ丘地区の南側に未利用地があって、もし最終的に開発されたときに、また安詳小学校がパンクするかもしれないので、亀岡市の都市計画のマスタープランにうたわれているのであれば、それも含めて検討したほうがよい。</p> <p>今回、急ぐ地域として、別院中学校ブロックと東輝・詳徳中学校ブロックがあって、その他の地域は中長期的で平成33年度以降となっているけれども、それまでにもっと議論して、子どもは地域の宝であるし、それを具体的にどう育ていくのかを一から組み立てていって、その中で必然的に合意できればいいと思う。小中一貫というのが流行りでもあるし、学力の向上にはよいのかもしれないが、それ以上に子どもたちが不安になったり、落ち着きがなくなったりすることのほうが心配である。</p>
座長	<p>白紙にして考えるという意見であるが、教育委員会としても一旦リセットした中で修正案を作ってきている。どうしても校区の変更をするとすると、学校の校区間の境目でしかできない。一から考えても同じような形のものになる。実施時期については、平成30年度を目標にするが、皆様の声を聞きながら柔軟に対応していきたいと考えている。ただ、野条区、森洗川区、森区等で説明会をさせていただき、反対意見も多くいただいたが、その中でも細かく聞けば、小学校1年生から学年進行でいくのであれば、仕方がないという意見も多く、賛成しているので進めて欲しいという声もあった。何年生までが移るのか、小学生も1年生からの学年進行ということであれば、それも選択肢のひとつとなる。皆様のご意見を聞く中で、判断していきたい。</p>
事務局	<p>この原案をお示しさせていただいている中で、対象地域の方には大変ご負担や</p>

	<p>ご心配をおかけしていることは重々承知している。そうした状況ではあるが、安詳小学校の過密化を解消していくためには、一定ご理解をいただけるように、地域に入って説明をしていきたい。</p>
委員	<p>平成30年4月を目標にしたいということであるが、もう平成29年3月も終わりである。あと1年である。PTAも新役員が動いている中で無理があると感じるが、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>修正案を示しているが、地域に出向いて説明会の中でお話しさせていただきたい。</p>
委員	<p>あと数日で年度が変わり、ここにいるメンバーも変わる中で、いまひとつ答えが見えない。時期をはっきりしないといけない。いつ決まるのか。中学校も夕日ヶ丘地区が詳徳中学校に行くことになれば、東輝中学校と詳徳中学校と人数が変わらなくなる。3～5年後に場合によって開発された時には詳徳中がパンクして、もう一度東輝中に戻してくださいということだけはあってはならない。そこが不安である。保護者の意見を聞くのはいいが、聞く限りには賛否が分かれる。丁寧にやっているのはわかるが、本当に平成30年4月から実施するのであれば、今年度中に結論を出さないと間に合わない。また秋には入学説明会等の準備をしないといけない。これだけ揺れている今の段階では平成30年は厳しいと思う。その先に検討するのであれば、平成31年にはやると決めて、そこまでに結論がでるように計画を立ててやる必要がある。</p>
委員	<p>亀岡市の未利用地に指定されている地域は、用途地域を確認すると第一種低層住居専用地域に指定されている。マスタープランでは職住共用のものを持っていくことになっており、住宅がメインだと思う。そのエリアは今の夕日ヶ丘地区を遥かに飲み込むくらいの規模となっており、すぐに開発されないにしても、開発されたときには安詳小学校や詳徳中学校が満杯になる可能性はある。結局、また子どもが学校を変ってしまう。もっと先を見据えて計画を作ったほうがいいのか。</p>
事務局	<p>実施年度の平成30年4月の実施に向けての考え方であるが、最低1学期中に目途が立たなければ、先へ延ばすことに変更していかないと考えているが、今の時点で、できる範囲で平成30年4月を目標に進めていきたい。</p>
委員	<p>平成30年度の実施は難しいと思う。ここを無理に進めるといろんな問題が出てくる。明日都市計画審議会があり、都市計画の審議がされる。一定の方向が出た段階で、教育委員会もそれを踏まえて判断していかないと、東輝中学校から詳徳中学校へ移って、また東輝中学校へ戻らないといけないことになれば、何のために校区変更したのかとなる。平成30年度実施を見送って、平成31</p>

	年度以降に実施すると今日ここで決定したらどうか。
委員	PTA は新年度の新役員がスタートしており、受け入れる体制ができていないので、平成30年度は難しいと思う。早くても平成31年度でお願いしたい。
委員	これまでの説明会で平成28年12月までに決めないと平成30年度は厳しいという話をされていた。それを受けて地域ではおそらくもう平成30年度は無理だと思っている保護者は多いと思う。前回の会議でも平成30年度は難しいとおっしゃっていた。でも、まだ残っている。地域としてまとまっていない状況では、もう少し腰を据えて2～3年かけて議論をしたほうがいい。説明会をすればするほど、変更された地域はいいが、変更されなかった地域はいろいろ残すので良くない。今後亀岡市を担っていく子どもたちなので、その子どもたちのことを大事に考えて欲しい。
委員	大きな枠で考えると平成30年度は難しい。例えば、つつじヶ丘小学校から南つつじヶ丘小学校へ移る東つつじヶ丘曙台4丁目は、目の前に学校があるため地域の人も要望されているので、単独で実施してもいいのではないかと。協議ができていない部分はやってもいいのではないかと。あと、安詳小学校から詳徳小学校へいくひばりヶ丘の辺りは大きく反対されている方もいないように聞いているので、そこは教育委員会の責任で判断したらいい。今日の段階で、教育委員会が責任持って、地域のほとんどの人の合意が得られるのであれば、進められるのではないかと。見通しはどうか。
座長	おっしゃっていただいている考え方で中身を詰めているところである。実施方法のところでもう少し皆様のご意見を聞かないと教育委員会だけでは決められないところもあると思うが、在校生を動かす部分については、平成30年度の実施は、難しいと考えている。
教育長	南つつじヶ丘小学校に移ってもらう地域については、通学経路が、南から中矢田篠線に下りてくる車が多く危険であるという保護者の意見もあり、通学路の確保ができない部分もあって修正している。その中で、東つつじヶ丘曙台4丁目については、従来から南つつじヶ丘小学校へ行きたいという声もあるので、ここが実施できるのであれば平成30年4月からどうか。夕日ヶ丘地区についても、早くに詳徳中学校に行きたいという声も聞いているので、そうであれば、例えば4月上旬に地域に入って説明をして、動きたい声があれば動かしていけるのではないかと。一斉に平成30年4月は無理であるが、合意が得られた地域については、一年をかけて受け入れ体制の準備もして、中学校にお願いもしながら、できるところから実施していく方法もある。個別ではなく、平成31年4月に一斉にしたほうがよいという意見もあるかもしれない。教育委員会としては、できるところから実施したいという思いを持っている。

委員	<p>夕日ヶ丘地区については、難しいと思う。都市計画の件も確認しないといけない。東つつじヶ丘曙台4丁目地区は、大きな問題はないと思う。例えば、平成30年4月は、この部分だけ実施するのであれば、みんなの理解が得られるのではないか。</p>
委員	<p>詳徳中学校としては、毎年少しずつ増えていく状況は落ち着かない。校区が変わることに子ども、保護者が理解して入ってきてほしい。</p>
委員	<p>南つつじヶ丘小学校は移れるだろうと言われているが、先ほども言ったように、もう既にPTAが新年度の体制で動いている。校区変更するのであれば、規約の改正等いろいろ変更しないといけない。PTAは何も知らない新人の集まりであるので、動き出したときにあれもこれも変更となっても、動けないので無理である。できればやめてほしい。PTAは、仕事も家庭もある中で、子どものためにやっている。4月5月は忙しく、正直大変である。31年度以降にしてほしい。</p>
委員	<p>地域に入っの説明会で出された意見はホームページに出ているが、その意見の返しがされていない。その意見の返しをホームページにも掲載してほしいと2回目、3回目のこの会議で言ってきているが、まだ掲載されていない。賛成意見も出てきていないし、どこの地域が早く移りたいのか分からない。そういう中で賛成意見があるとか、早くして欲しいという意見があると言われても、本当にそうなのかと思う。100%なのか6割をそうみなされているのかわからない。近くなるから賛成が多いと言っても、中には親の仕事の都合で、祖父母に面倒を見てもらっているの今の学校のほうが良いとか、いろいろな意見もあるだろう。もう少し丁寧にしてほしい。ここは議論する場であるから、一般に出せなくても、資料としてデータとして出してもらわないと議論が進まないのではないかと。どこの地域が賛成で、早く移りたいのかと聞いてもはぐらかされてしまう。受け入れる側のPTAの役員のこともあるし、学校も準備は当然必要であるから、その時間も必要である。その中で最終いつからするのかという議論がないと、PTAも学校も困るし、移ってきた子どもに一番迷惑がかかることになる。情報をきっちり出してもらわないと議論にならない。</p>
委員	<p>意見を聞いているとどこも平成30年度から実施は難しいということがはっきりしてきた。できるだけ、早い段階で具体的な地域ごとの声であるとか、人数であるとか、あらゆる条件と可能性を見せてもらって、幅広い選択肢で考えていかないといけない。亀岡市としては人口が増えることはよいことであるが、大幅に人口が増えるとなると、安詳小学校のパンクでは済まなくて大変なことになるだろう。今のままの校区では困るところがでてくるということである。そうすると、例えば国道の南側に学校を作るという選択肢もでてくる。そんな</p>

	れば、すべてうまくいくが、ただそれが可能なのかも検討する必要がある。
委員	来年度の安詳小学校は50名ほど増えて、918名の在校生となる。学校がすることなのか教育委員会がすることなのかは分からないが、既に満杯で、例えば下駄箱が入らなくなる。亀岡市の児童であることは一緒なので、他の学校と同じような教育環境を整えてほしい。校区の見直しがあるからいいというのではなくて、それまでの子どもについても、手当を考えてやってほしい。差し迫った状態なので、その辺の議論も両輪でして欲しい。PTA 活動をする中で、先生が児童一人一人に向き合って、夜遅くまで残って、工夫して丁寧に接していただいていることを目の当たりにして、ありがたく思っている。学校の中で工夫できるところはやり尽くしている感がある。根本的に教育委員会で対応してほしい。適正化の議論も放っておくのではなくて、進めていく必要はある。
座長	新年度の新入生の受け入れについての、施設の整備や備品等については、学校と連携しながら対応していきたい。
委員	今のいろいろな意見を聞く中で、平成30年度実施はないと考えていいのか。それをはっきりしないと、同じ議論がずっと続く。
教育長	何人かの委員から平成30年4月は無理であると意見をいただいたが、新年度になって、これまでの経過や意見を踏まえて、改めて報告したい。
委員	東つつじヶ丘曙台4丁目であるが、南つつじヶ丘小学校は高台にあるため、高台にある地域は多分みんな賛成ですぐに移しても大丈夫だと思う。ただ、行政区で区切っているため、高台の下の部分もある。ここは、住民の意見を十分に聞く必要がある。坂を上ってくる必要がある。ここは住民説明会でしっかりと説明し、もし高台の下の地域の人がここは外してほしいという声があれば、外すべきである。先ほどもあったように、もう既に、PTA は新年度の体制で動いており、前回の会議で平成30年度はないと議事録にもあるため、来年度はそういう動きがないという認識をもって役員に就かされている。それが突然覆ると、まず南つつじヶ丘小学校の PTA 役員の間にも不満がでる。それであれば、平成31年には動くから平成30年の間に PTA も準備をし、学校もつつじヶ丘小学校と連携を進めるほうがよいのではないかと。そうであれば、1年間の余裕があるので、子どもたちが納得するのであれば1年生から6年生までを一気に動かす方法もあるのではないかと。具体的な案で住民の理解が得られたらよいと。
委員	安詳小学校は、PTA の選出については7月くらいから始まる。昨今言われているように、なり手がいない。どこも一緒だと思うが、安詳小学校は抽選ではなく、推薦活動という方法を取っている。そのため、それまでに一定方針なり、来年から実施するのでどういう覚悟が必要かも含めて説明して、納得していた

	だいて役員を決める必要があるので、平成31年もしんどいのではないかと。
委員	学校はPTAの本部役員には学校の運営等で支えてもらっている。そのためPTAの気持ちや意見は尊重してほしい。学校とPTAの関係が崩れると行事がうまく運営できなくなる等、子どもたちにも影響が出てくる。
委員	一番に考えないといけないのは子どものことである。決めるのは大人である。子どもは子どもなりに悩んでいる。100対0にはならないが、できるだけ大きな声にまとまるようにしていく必要がある。ただ、それぞれの立場もあるし、教育委員会も取り組まなければならないスケジュールもあると思う。平成30年4月からは無くなったと思っているが、それが平成31年4月や平成32年4月となったときに、逆算して、それぞれの時期に行政としてこの手続きが必要で、そのためには、そこから何か月先には地元の同意をいただかなければならないというスケジュールはこれまでに出了たか。
事務局	そういったもの具体的にお示しさせていただいたことはない。
委員	当然、ここの議論も大事であるが、学校、PTA、教育委員会各々が、この時期にはこういうことをしていかないといけないというタイムスケジュールも大事である。それを見せていただきたいが、イメージだけでも教えてほしい。
教育長	本来であれば、そういうものが必要であると思っていたが、それを先に出すと決まっているのではないかと議論になることが懸念された。それよりも通学区を変わっていただくことについての皆様の意見を聞くというのが今年の流れであった。教育委員会として、4月以降改めて説明していく中で、例えば平成31年を目標にするのであれば、どういうスケジュール感でいくのかを学校やPTA役員と調整して作っていききたい。地域割り等議論していくところはまだまだあるが、教育委員会としては、安詳小学校の過密解消を一日でも早くしていきたいので、理解していただくために、準備も含めて何とか多くの方にご理解いただけて進めていきたい。
委員	亀岡地区東部地域であるが、保護者の意見を聞いてみると、うちの子もだけはつつじヶ丘小学校で卒業させてやりたいとか亀岡小学校ならそれで子どもに説得できるし早く決めて欲しいという意見があり、100対0にはならない。それに近づける必要があるが、時期によっては選択できるようなタイミングも必要になるのかなと思う。
委員	一番大事なのは、スケジュールのいつ何年度ではなく、X年度と決めて、1年前にやるべき項目は何か、2年前にやるべき項目は何かとX年度工程表がある。

	<p>その中の相手も見ながら、小学校区はどうするのか、都市計画はどうなるのか、人数は社会情勢の変化もある。それを誰がどの段階で検討して、そのタイムスケジュールに入れていくのか、メンバーは誰かという X 年度計画が必要である。今年は無理だから来年、来年が無理なら再来年となればいずれ消滅する。そうなればこの議論は何だったのかとなる。そうしないと見えない。前回1月12日に出された資料からブルーの地域が半分以上削られたが、これで決定したのかと思ったが、まだ議論の余地があるということは、この資料が一人歩きしてしまう。校区の問題はセンシティブに扱わないと決めかねると思う。一人一人の意見を聞いて、意思表示を確認するのは馬鹿げているので、教育委員会がある程度主導権を持っていかないといけない。今日の資料が決定でないことを最初に言ってほしかった。</p>
<p>委員</p>	<p>この資料について、いつ現在の修正案なのかを明確にして欲しい。今回紫色の亀岡地区東部地域については、前は括弧書きがなかったが、今回入った。そうするとこれに変わったのかとみられてしまう。ここの地域は今後も協議が必要な地域で変更がないので、もう少し工夫した資料の作り方をしたい。どこが決まって、どこが保留なのかを分かるようにするか、備考欄に記載する等してほしい。それからロードマップを作してほしい。新入生にどこの学校であるかを通知すると思うが、時期はだいたい決まっていると思う。それから逆算していけば、どの時期に何をしなければならぬかが出てくると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>年度の変わりは人が変わる。資料に変化がみられない。ぜひ、一区切り付けて、着地点を見出して欲しい。どこで誰が結論を出すのか。平成33年度の数字をみるとかなり、状況もみえるが、ここに持ってくるには何をどうするのかを練る時間をもっといただいて、それなりの資料と意見を活性させる策を持って欲しい。人が変わって一からの議論になると時間の無駄になってしまう。そうならないようにして欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>去年の6月にロードマップが出されて、平成29年度から見直したいと出された。混乱した会議になり、その後平成30年度からとなった。結局ずるずるきている。最初は夏ごろの教育委員会で決定して、秋の説明会で発表してやっていくということであったが、それが平成30年度からやっていくのであれば、12月までに決定しないと新年度に間に合わないですと言っておきながら、ずるずると後退していった。前回30年度は無理ですねと確認したにもかかわらず、また平成30年度となっている。もっと先を見据えて議論してやっていかないといけない。役員も変わり、教育委員会も人事異動も変わり、結局決まらずに混乱だけが残る。基本方針の中で中長期的な取組として、平成33年度からとなっているので、それに合わせて平成33年度からでよいのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局の説明の根拠付けが不十分である。また都市計画のマスタープランも含</p>

委員	<p>めて、根拠付けすべきである。</p> <p>住民説明会に何度か行かせていただいたが、そこで感じたのが、住民の方々がこの適正化をなぜするのかを理解されない。方法にばかり目がいて目的が分かっていないから混乱しているのではないか。安詳小学校がパンクするからやっていると安詳小学校のせいになっている雰囲気がある。毎回できれば2小1中にするための政策であると説明してほしい。現在、保護者は不安に思っていると思う。通学路はいつごろ確定するのか。案だけでも決めないと保護者は納得しないと思う。そこから意見を取り入れて決めていくようにしてほしい。基本的にみんなは、教育委員会が嫌いだからでもなく移る学校が嫌いだからでもなく、子どもからすれば仲の良い友達がいるから、保護者は、信頼できる先生がいるから、地域からすれば、この学校から卒業することを誇りに思っているからである。学校長や先生が頑張っているからこそこういう関係が築けているのだと思う。住民の方にメリットを説明してほしい。生徒の人数が減ると学習環境が良くなるという説明でも、保護者からすれば、学習環境が良くなればどうなるのか分からない。学校の成績が上がるのかという意見もあった。学校の学習よりも家庭学習の方が大事で、教室の人数が少なくなって成績が上がるわけではないと思うが、先生にもし児童の人数が減ったらどうかと聞くと、1～2人では変わらないが、5人単位で減ると変わってくる。児童一人に目が届くようになるし、懇談の時間も取れるようになる。それは大きなメリットだと思う。</p>
委員	<p>同じであるが、保護者には誰のためにするのかというメリットが届いていないのではないか。教育委員会の説明では英語教育ができるようになるとかいろいろあるが、具体的にどのようなようになるのか保護者に伝わっていないし、単に満杯になるから数合わせにされているのではないかという気持ちが強いと思う。教育委員会は、学力テストは公表できないと言われていたが、全国的にみてどうなのか。大規模校適正化し、小中一貫になることでどれくらい上がるのか、どういうところを目指しているのか。そのビジョンがまったく見えない。何のためにするのかが見えないのが混乱する原因ではないか。点数を上げることも大切であるが、それ以上に小学校では経験や体験をし、失敗をすることで、工夫したり課題を克服する力が養われ、後々どこかで役に立つ。そういう取組ができる学校にしてほしい。その辺を説明しないと保護者は理解できない。押しが弱い。安詳小学校は事故以来、交通の問題や通学路の問題は切実である。どこの説明会でも通学路の質問がされていた。今後説明会をする際には通学路の案もセットで考えて説明してほしい。この案では、通学路はここになります、ここは危険個所で、こういう対策をしますという具体的な説明をしないと保護者には落ちてこない。安詳小学校は集団登下校で、それが今回見直されたときに、同じ対応をしてもらえるのか。親からすれば当然されていたので、してもらえろという前提で質問がなかったが、そこも含めて丁寧に説明してもらいたい。</p>

放課後児童会もメリットのひとつで、今まで低学年しかできなかったが、今回校区の見直しをすることによって、高学年まで広げられるというのもひとつである。メリットも含めて将来ビジョンを示さないと前向きな議論にならないし、それをするためには先を見据えたスケジュールに繋がってくる。

(会議終了)